

ツール・ド・おおすみの課題と展望

中道彰吾*

皆さん、こんにちは。ツール・ド・おおすみの第16、17回の2年間、実行委員会を務めています、中道と申します。本日は、ツール・ド・おおすみの課題と展望というところで、正直なところ課題しかありませんが、今日は本当に中の恥をさらしてもいいぐらい課題を説明していきます。ぜひ、今日ここで皆さんの意見をいただいて、解決するぐらいの気持ちできましたので、本日はよろしくお祈りします。

まず、ツール・ド・おおすみの開催の経緯です。ツール・ド・おおすみは海上自衛隊鹿屋航空基地で開催されるエアメモリアル、そして鹿屋市政60周年を記念して、2001年に第1回大会が、鹿屋青年会議所、通称鹿屋JCと言われるところの年間事業の一つとして開催をされました。

この鹿屋青年会議所とはどういう団体なのか、ご存じの方も多いと思いますが、鹿屋青年会議所というのは、明るい豊かな社会の実現を目指して20歳から40歳までの指導者たらん青年が集う団体です。難しい言葉で書いてありますが、日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を作り出すために市民運動の先頭に立って進むべき団体として20歳から40歳の青年が活動するのが青年会議所です。動きとしては、5年や10年の中長期で動くのではなく、毎年、単年度で活動していく団体です。

このツール・ド・おおすみがどのように発展してきたのかということですが、まずツール・ド・おおすみの概要です。Aコースは110キロ程度の上級者向けのコースです。Bコースは60キロから70キロの中級者の方を対象としたコースです。Cコースはエンジョイ・サイクリング・コースと題して、通常30キロから45キロぐらいに設定しています。初級者というか、親の付き添いがあれば小学校の低学年から参加できるファミリーコースとなっています。

これは15回大会の集計ですが、参加者の集計を見ますとCコースのエントリー数が174名、Bコースが214名、Aコースが449名と、総計でエントリー

数は837名と、800名を超えるイベントとなってきています。

参加地域を見てみますと、県内の方々が62パーセント、県外の方々は38パーセントで、大体6割と4割の割合で県内と県外に分かれています。都道府県別に見ていきますと、ご当地鹿児島が飛び抜けて多いのですが、九州の中でも宮崎、熊本、福岡、この辺のところから多くの方々に参加していただいています。他に北は北海道から、このときはありませんが南は沖縄まで全国から参加していただけるイベントとなっています。

続いて、年齢別ですけれども、年齢は30代、40代、50代の男性の方が非常に多いです。しかしながら下は9歳から上は70代で、毎年一番高齢の方を表彰する制度がありますが、今年は78歳の方が参加しておりました。このときは女性が少ないですが、最近は徐々に女性の方も増えてきているという傾向にあります。

次にツール・ド・おおすみを何で知ったかということですが、17回していますので口コミです。リピーターの方々に次に参加する方が多いですし、知り合いの方に紹介する方も多いいいことです。また、ちらしについては、今日は持ってきてはいませんが、車輪の形をした丸いポスターを作って、インパクトのあるポスターの作成に努めています。あとは大会のホームページ等を見て、ほぼ100パーセントの方がスポーツエントリーでエントリーされます。

どのようなことを楽しみにしていますかというところでは、やはり自然豊かな景観・風景、そして併せてコース、おもてなし、料理、あとは招待選手ということもあります。ツール・ド・おおすみには鹿屋体育大学生やプロ選手にも来ていただいて協力いただいていますので、その辺も楽しみにしている方が多いのではないかと考えられます。

組織としては、今は主催がツール・ド・おおすみ実行委員会、主幹がサイクリング協会、そして後援として各種団体、各地域の行政・市町村の方々にご後援

* ツール・ド・おおすみ実行委員会

をいただいています。協力はこれに書いてありますようにさまざまな団体の方、もちろん鹿屋体育大学も、さまざまな業種の方に協力をいただいています。

次に、発展の理由ですが、やはり楽しみにしてきている理由の第1位にありますように、大隅の自然、そしてサイクリング環境です。一言で言えば、人のいないところ、いないところにコースを作っていきますけれども、車の交通量が少ないというところでサイクリングとしては非常に安全で走りやすい、そして自然が豊かというところがあります。

いろいろなイベントありますが、これもうほとんどが目指すところですが、やはりおもてなし、そのおもてなしの中では行った地域地域のご当地の料理を昼食で出すなどして、あとエイドステーション、給水所においても、地域の食材を出すように心掛けています。もう一つは、鹿屋体育大学生、プロ選手のサポートがあるという、他のサイクリングイベントにはあまりない特色があるので、これが発展の理由ではないかと考えています。あとは地域に及ぼしたインパクトです。県内外から参加するイベントとして、市民からかなり認知されてきています。ツール・ド・おおすみといったら自転車でサイクリングをするイベントとほとんどの方が知っているところまで認知されてきました。もう一つは街づくりが活性化してきましたので、サイクリングに興味を持つ方が増加してきた、鹿屋は自転車の街として今からもっともっと、サイクリング人口を増やしていかなければならないのですが、当初の1回目からすると、最近自転車で走っている方々をよく見かけるようになりました。現在ではさまざまなサイクリングイベントを、自転車を活用してさまざまな企画を打ち立てられるようになってきているようです。例えば各市町村で行政がちょっとしたサイクルイベントをするなど、ツール・ド・おおすみが原因ではないのですが、Ciel Bleuという自転車プロサイクリングチームが誕生したのも最初の1回目のツール・ド・おおすみに協力をいただいて自転車が認知されてきた証ではないかとも考えています。

あと、今後の課題と展望です。まず課題です。ツール・ド・おおすみは、認知はされてきていますが、地域の方々がなかなかこのイベントを実際に触れる機会がないというところが一つの課題であります。というのが、駅伝やマラソンレースなど、レース系のスポーツでしたら、観客が多くて非常に盛り上がる傾向にあ

りますが、サイクリングメインのこういったイベントになると、応援者は少なからずいますが、進んで大勢の方が触れるという機会が少ないというところが課題です。

もう一つは自転車の街鹿屋をうたえらしたたら、地元の方々の参加がもっともっと増えるべきだと思います。ですから、参加している方の6割、7割は地域の方がで、それに付随していろいろな方を巻き込んで、そして協力者もボランティアも増えていくのではないかと考えています。

もう一つはさまざまな団体や企業が魅力を感じて参加する事業に達していないということです。もちろんゼッケンに名前を入れていろいろ協賛をもらって、協力はいただいているのですが、どちらかといえば善意で、私どもにもうちょっと頑張れとエールを送る意味で参画していただいていますので、そこには費用対効果が生まれるような事業者が参加する必要があるのではないかと考えています。

あと、サイクリング環境としての魅力は十分に感じてもらっているが、その他数多くある地域資源に触れられずに帰ってしまっているということがあります。あとでアンケート結果に出ると思いますけれども、通常は1日開催ですので、朝来て走って夕方にはもう帰ってしまう、そういったことで滞在滞在型の観光には十分には伝わっていないというところが現状です。

次に内部的な話になります。イベントを継続するために三つの要素があると私は考えています。一つは、やはりお金がないとできませんので、事業費です。もう一つは思いを持つリーダー、みんなを引っ張っていく思いを持ったリーダーがいけないと考えています。三つ目は、それをサポートする協力者、それがいけないと考えています。まず、事業費ですが、現在事業費は鹿屋市からの補助金と、参加者の参加費、一部協賛で賄っています。しかしながら補助金だけに頼るイベントでは発展性がないのではないかと、補助金が止まったらもうイベントができなくなる、そういったイベントでは良くないと、あとは参加費を上げると参加者の減少にもつながりかねない、協力者もほぼボランティアですので、ボランティアに日当を払っていると収支がもう赤字になってしまうのももちろん現状にあります。

次に思いを持つリーダーです。先ほど話したとおり、第1回が青年会議所の単年度的な事業で始まりま

したので、現在は実行委員会組織で行っていますが、正直な所、恥ずかしい話、毎年単年度ごとの寄せ集めの組織であって、継続に実際のところ苦慮しているのが現状であります。毎年実行委員長を決定するところからスタートしてそこから組織がまた決定されます。そしてその実行委員会も毎年継続されている方もいて、思いを持った有志で編成されますが、ちょっと仕事が忙しくなったので今年は悪いけど協力できないとか、そういったイレギュラーなことが起きたりすることも多々あります。

次にサポートする協力者です。先ほどから話しているとおり、各担当者もそのときどきで決めて、その他最低100名以上のサポートが必要となります。なので、それもほとんどボランティアですので、集めるのがなかなか困難であります。現在は、これまでのボランティア経験のある方にもう一度協力してくださいと声掛けしたりと、あとは実行委員会メンバーの知り合いに声掛けをしたりしながら100名以上のボランティアを募っています。ただ、団体ごとにいけば、毎年協力していただいている団体の中にボランティアの方がいらっしゃると思いますので、その方々は毎年ボランティアに参加していただいているのはあります。

今後の展望です。やはりサイクルイベントというところ、ニッチな部分もなきにしもあらずですので、サイクル以外のイベントとコラボして、そこでまた自転車を知らない方たちにも自転車を広めていくということも必要ではないかと考えています。ですので、例えば地元の食材を使った食のイベントと同時開催したり、ツール・ド・おおすみの走る参加者以外にも遊びに来て総合的なサイクルイベントにしたり、そういうことをすることによって人を集客することで物販とか商業が成り立って、各事業者の協力が得られやすくなる必要があるのではないかと考えています。また、観光に触れていただくために、複数日開催の定着をする必要があるのではないかと考えています。さらに、肝心要の実行組織を一般社団なのか任意団体なのか株式会社なのか会社組織なのか、そういった実行組織を固定化して継続する必要があると考えています。

そこを踏まえて、ここ最近、私が実行委員長を務めて取り組んでいることとして、2日間開催を昨年行いました。メインの2日目は通常のコースで行い、1日目をプレミアム・ファン・ライド・コースとして、約30キロ、かのやばら園を出て、鹿屋体育大学に止まっ

て、そこでいろいろなイベントをして、そして古江漁協、荒平天神、かのやばら園に帰ってくるプレミアムなコースでした。例えばこういったふうに参加者と荒平天神で写真を撮ったり、あとは黒川監督の協力も得て体育大学のスポーツの講義を先生に行っていたり、体育大学生がもがきをするところがありますが、そのもがきのデモンストレーションとか、実際に一緒にそれを体感することであったり、通常のツール・ド・おおすみでは味わえないプレミアムコースを今年は開催しました。最初ということで参加者は70名ぐらいと少なかったですけれども、非常に好評でしたので、今年度もこのようなコースの設定を考えてはいます。その夜は第10回大会でも行った歓迎祭というのを行いました。会場は鹿屋イベント広場で、6時半から、黒豚、カンパチなどの地元食材を使った料理のもてなしや、鹿屋体育大学自転車競技部の協力によるイベントの開催等も行いました。このようにベダリング・パワー・チャレンジということで手づくり感・親近感のあるイベント、それから食事、みんなと交流できるようなイベントを開催しました。こちらの参加者は今回50名ぐらいでしたが、また継続していくことによってこういった観光にもつながっていくのではないかとということで、足掛かりとして開催をしました。

もう一つは2年前の16回大会で、私が初めて実行委員長をしたときに、目に触れないということで、もう30年以上、北田・本町・で歩行者天国を毎年行っているのですが、その歩行者天国に協力をいただいて、その中でスタートしてゴールをするという試みをしました。参加者としては、スタートするときも街中の道路からスタートするというのもなかなかありませんし、行くときも観客が多いですし、帰ってきたときも人がいて非常にうれしかったという声をいただいています。ただ、あいにくのとんでもない大雨でした。ですので、昼からの縮小開催としましたけれども、来ていただいた方には非常に喜ばれる大会となりました。

もう一つ、昨年行ったものとしては、先ほどから観客があまりいないということでインスタ Photo コンというのをやりました。1年を通して、10月10日からですが、自分たちが練習している自転車の風景とか、景色とかを撮っていただいて、一番の狙いは、走っている参加者の写真を撮るお客さんを増やしたいということで、インスタ Photo コンは1位になりましたら、新村畜産の1万円相当の黒豚とか、ソーセージセット

とか、そういったものをやりました。今回は思ったより少なかったですけど、200枚弱の写真が集まって、結構沿道で観客として撮っている方も多かったんで、これはまたやり方を変えれば非常に効果的になるのではないかと思います。

最後にツール・ド・おおすみの開催の目的、これは第1回目から変わりませんが、サイクルイベントを通じて大隅半島の広域における観光の促進と健康スポーツの増進を図る、そしてまた各地域の魅力を掘り起こし、魅力ある大隅の創造と発信、活気ある街づくりに貢献することを目的とするとあります。正直恥ずかしい話、私も自転車には乗れません。しかし、青年会議所からの思いを引き継いで、ここの活気ある街づくりに貢献するということ、みんなで思いを持って、そこに今までやってきたサイクルイベントがあるので、それを活用して街づくりにどんどん貢献したいし、観光が活性化して鹿屋に、大隅にたくさんの方が来ていただきたいという思いは持っています。今後また2018年度、まだ決まっておりませんが、もう私がするしかないということで、2018年度も実行委員長をやりますので、またぜひいろいろとご意見をいただけると助かります。ご清聴ありがとうございました。

コメンテーターから

コメントといいますか、中道さんにお伺いしたいのですが、実行委員会の組織が固定化されていないというのが悩みの種だという話があった一方で、中道さんがこの2年ぐらい実行委員長をされているいろいろな取り組みをされたり変化が出てきたりしているというのは、それは結構固定されたこととか実行委員長が継続されていることによってそういう結果が出てきている、取り組みが新しく生まれているということだと思います。今後もう少し固定化する、事務局員を配置するとか、そういうご予定とか、あるいはこれまでの流れでちょっとそれは無理かな、現時点では無理かもしれないといった、実情というか経緯を、もしよろしければご説明いただけると参考になると思います。

中道：ありがとうございます。

今、サイクリングの専門家としてはサイクリング協会の会長や、もちろん黒川監督にもご協力をいただいて開催しています。ただ、実行組織、実際に動かす人間としては、例えば私が1人いて、5人ぐらいリー

ダー的な核になる人がいないといけないということで、今、3名ほどは確定していますが、あと2人は5か年計画で、20回大会なのか、30回大会なのか、そこをピークに持っていけるようなメンバーを募っています。去年かな団体を新しく組織を作りたいねということで去年1年間動いて、その成果を今年出す1年にしたいと考えて、今、そういうふうには動いています。

工藤：新しい人が入ってくることはありますか。例えば、以前では鹿屋の青年会議所に入ってくる人もいたと思いますけれども、今現在の組織の中に呼んで来たらすぐくはまって手伝ってくれるようになったとか、そういう新しい人の出入りというのはありますか。

中道：簡単なボランティアではありますが、実行委員会のメンバーとしては、大体みんな中身を知っているので声が掛かると敬遠されるような、来たぞというような感じで、すいませんと逃げられているというか、思いは持っていますが、大体青年会議所を40歳まで頑張っていて、40歳からは仕事を頑張るぞとか、やっと卒業して終わったという感じの人が多いので、そこからまた先輩からツール・ド・おおすみといわれると、思いはあるけれどそこまではということなんです。

工藤：人材の問題と作業量といいますか、大会に向けての準備の労働量といいますか、そういうところが負担になるという感じですか。ありがとうございました。

中道：ありがとうございました。

ツール・ド・おおすみの 課題と展望

平成30年2月5日
実行委員長 中道 彰吾



開催の経緯



海上自衛隊鹿屋航空基地で開催される「エアームリアルinかのや」のイベントのひとつとして、市制60周年を記念し2001年に第1回大会が鹿屋青年会議所(鹿屋JC)の年間行われる事業のひとつとして行われました。

鹿屋青年会議所(鹿屋JC)とは……………?

青年会議所(JC)

「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、時代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。
また日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創り出すため、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所です。



どのように発展してきたのか



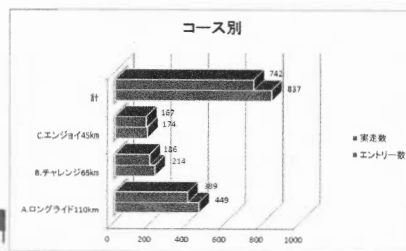
《エントリーコース》



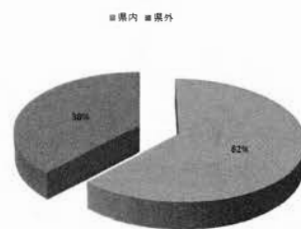
- A おおすみ南回りロングライドコース(約110km)
かのやリナシティー前～大始良町～錦江海岸線～錦江町～岸良海岸(昼食)～肝付町～吾平町～河川敷～かのやリナシティー前まちなかパーク
- B おおすみチャレンジコース(約70km)
かのやリナシティー前～大始良町～錦江海岸線～錦江町花瀬川(昼食)～吾平町～河川敷
かのやリナシティー前まちなかパーク
- C エンジョイサイクリングコース(約45km)
かのやリナシティー前～河川敷～波見海岸～河川敷～かのやリナシティー前まちなかパーク(昼食)

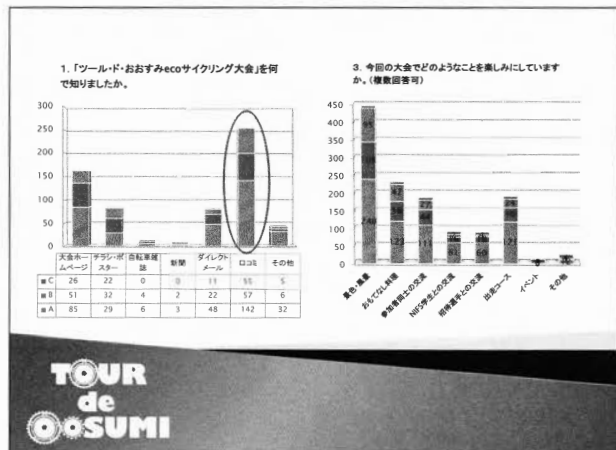
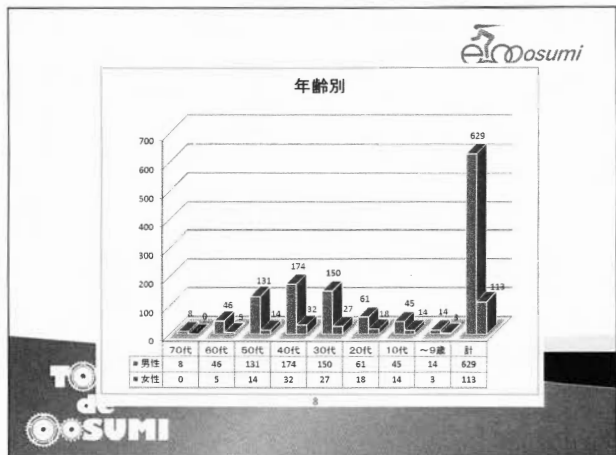
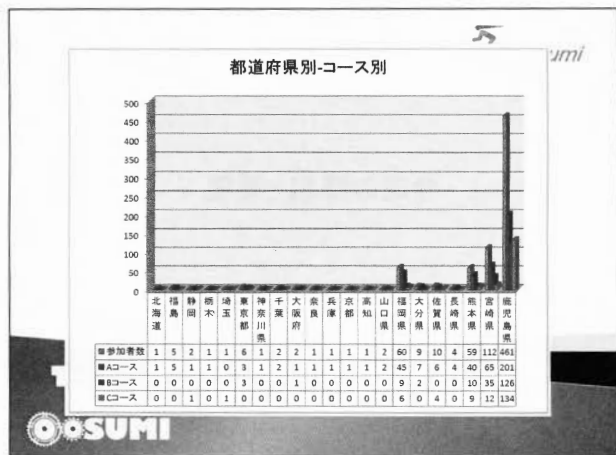


第15回ツール・ド・おおすみecoサイクリング大会 参加者集計結果



参加地域





主催
ツール・ド・おおすみ実行委員会

主管
鹿屋市サイクリング協会

後援

公益社団法人 鹿屋青年会議所・公益財団法人 日本サイクリング協会・鹿児島県サイクリング協会・鹿児島県自転車競技連盟・鹿児島県大隅地域振興局・鹿屋市・鹿屋市教育委員会・錦江町・錦江町教育委員会・肝付町・肝付町教育委員会・東串良町・東串良町教育委員会(順不同)

協力

海上自衛隊鹿屋航空基地・鹿屋市観光協会・公益財団法人 鹿屋市交通安全協会・公益財団法人 鹿児島県交通安全協会錦江地区協会・国立大学法人鹿屋体育大学・国立大隅青少年自然の家・寿自動車学校・鹿屋ホテル旅館生活衛生協業組合・鹿屋ローターアクトクラブ・アースデイかはや・でんしろ うんめもの会・大根占ふかみ会・鹿屋市茶業青年緑萌会・ソウクリエイションズ・鹿屋ライオンズクラブ・キャノンデール ジャパン株式会社・桜観光・鹿屋サイクリングクラブ・鹿屋市役所自転車遊戯部・鹿屋青年会議所・鹿屋商工会議所青年部・北田・大手町商店街振興組合・本町一番商店街振興組合・まちづくり鹿屋(順不同)

発展の理由

- ①大隅の自然、サイクリング環境
- ②おもてなし
- ③鹿屋体育大生、プロ選手のサポート

地域に及ぼしたインパクト

17年間開催してきたことにより

県内外から参加するイベントとして市民から認知
自転車を活用した、まちづくりが活性化し、サイクリングに興味を持つ方々の増加
現在では様々なサイクルイベントや自転車を活用した企画などが立案



今後の課題と展望



地域の方々が、このイベントに実際に触れる機会が少ない
地元の方々の参加がもっと増えるべきである
様々な団体や企業が魅力を感じて参画する事業に達していない
サイクリング環境としての魅力は十分に感じてもらっているが、その他数多くある地域資源に触れずに帰られている。

イベントを継続するための要素

事業費

想いを持つリーダー

サポートする協力者



事業費

- ①鹿屋市からの補助金
- ②参加費
- ③協賛金

- ・補助金だけに頼るイベントでは発展がないのではないかと
- ・参加費を上げると参加者の減少につながる
- ・協力者もほぼボランティアである



イベントを継続するための要素

事業費

想いを持つリーダー

サポートする協力者



想いを持つリーダーの存在

スタートが青年会議所～現在は実行委員会組織で行っているが毎年単年度ごとの呼び集めの組織で継続に苦慮している

- ・毎年実行委員長を決定することからスタートしそこから組織が編成されている
- ・想いを持った有志で編成されるが継続が困難



イベントを継続するための要素

事業費

想いを持つリーダー

サポートする協力者



サポートする協力者

各担当者のほか最低100名以上のサポートが必要となるがボランティアなので集めることが、かなり困難

・現在はこれまでの経験のある方や実行委員会メンバー等の声掛けで確保している



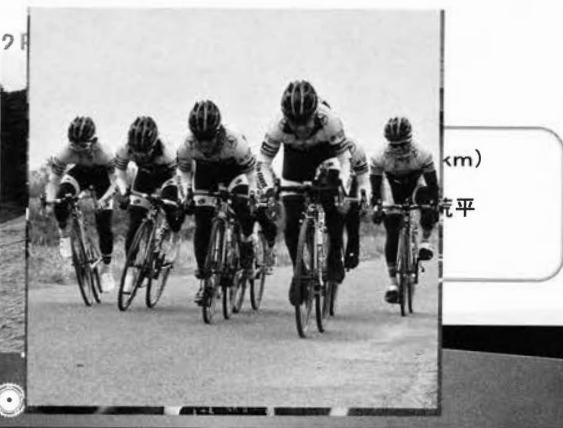
今後の展望



- ・サイクル以外のイベントとのコラボ
(地元食材を使った食イベントなど)
- ・ツールド参加者以外も楽しめる
総合的なサイクルイベント
- ・人を集客することにより、各事業者の協力
- ・複数日開催の定着
- ・実行組織の固定化



最近の取り組み



数十年続く歩行者天国が開催される まち中からのスタート～&ゴール



ツールドおおすみを市民の目に触れるイベントにするためのフォトコンテスト

TOUR de OSUMI × Instagram

Instagramにておすすみの魅力を発信!!

インスタPhotoコン

応募期間 10月10日(火)～11月30日(木)まで

応募資格 どなたでもご応募可能

応募方法 お一人様何点でもご応募OK!!

グランプリ 1名様	【新村畜産】 大黒黒毛和牛 1万円相当
2等賞 2名様	【新村畜産】 大黒黒毛和牛 5千円相当
入賞 5名様	【ふくどめ小牧場】 ハムソーセージセット 3千円相当

※応募しなかった場合は抽籤により入賞者を決定します。

※抽籤日 入賞者以外にはInstagramのダイレクトメッセージにてご連絡させていただきます。

※お問い合わせ先: www.tourdeosumi.comにてお問い合わせいただけます。

※応募者 2024年10月10日(火)～11月30日(木)まで開催いたします。

※お問い合わせ先: info@tourdeosumi.comにてお問い合わせいただけます。

※主催: ツールドおおすみ実行委員会

【お問い合わせ先】ツールドおおすみ実行委員会事務局 TEL:0964-31-1325 FAX:0964-31-1326 E-mail: info@tourdeosumi.com

最後に

「ツールドおおすみ開催の目的」

サイクリングイベントを通して、大隅半島
広域における観光の促進と健康スポーツ
の増進を図る。

また、各地域の魅力を掘り起し、魅力ある
大隅の創造と発信、活気あるまちづくりに
貢献する事を目的とする。

TOUR
de
OSUMI